

2026.9.3

報道関係者 各位

< 配信枚数 3 枚 >

■開催案内■

立命館土曜講座 2026 年 10 月テーマ

未来へ受け継ぐもの 80 周年記念公開講演会—問いをつなぐ三つの講座

開催日程：2026 年 10 月 3 日(土)・10 日(土)・24 日(土)10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法：ハイブリッド講座（末川記念会館 SK101・Zoom ウェビナー）

2026 年 10 月の立命館土曜講座は、80 周年記念公開講演会として、ハイブリッド形式（末川記念会館 SK101・Zoom ウェビナー）で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 2026 年 10 月テーマ

「未来へ受け継ぐもの 80 周年記念公開講演会—問いをつなぐ三つの講座」

(1)「文字は、私たちの見方をどう受け継いできたのか」—漢字から考える、世界の捉え方

(2)「あらためて問う、平和とは、平和博物館とは何か？」

(3)文化と心「ものの見方は、文化のなかでどのように育まれるのか」—多様性から複線性へ

開催方法：ハイブリッド講座（末川記念会館 SK101・Zoom ウェビナー）

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：末川記念会館 SK101:180 人、Zoom ウェビナー:400 人

※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当：尾崎・堀

TEL.075-465-8224

別 紙

■立命館土曜講座 2026 年 10 月テーマ

「未来へ受け継ぐもの 80 周年記念公開講演会一問いをつなぐ三つの講座」

(1)「文字は、私たちの見方をどう受け継いできたのか」—漢字から考える、世界の捉え方

日時：2026 年 10 月 3 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師：立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 客員研究員

T&Y 日本語学校 校長

大阪府立大学 名誉教授 大形 徹

講師による内容紹介：

日本人は独自の文字を持つのでしょうか。漢字は中国から受けとったもの。平仮名は漢字の草書。「あ」は「安」。片仮名は漢字の部首。「イ」は「伊」のにんべん。ハングルのような独自の文字ではありません。独自の文字を持つ民族はわずかです。シュメールとアッカドは異なる言語体系ですが、アッカドはシュメールの楔形文字を借りました。日本と中国に似ています。漢字には知の体系が含まれており、それが我々の社会の基盤となっています。

文字は文法と関係なく使えます。漢字だけでなくアルファベットもふつうに使っていますよね。パソコンをローマ字入力している人も多いでしょう。

印鑑を一つも持っていない方はいないでしょう。印はメソポタミア起源で当初は粘土に押していました。中国に伝わり、一部分、粘土にして押していました。封泥です。紙が使用されるようになり、封泥に色をつけ、印を紙に転写するようになりました。

この回では、漢字という文字文化を手がかりに、どのような見方が受け継がれてきたのか、そして未来に何を残していけるのかを考えます。

(2)「あらためて問う、平和とは、平和博物館とは何か？」

日時：2026 年 10 月 10 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師：立命館大学 名誉教授

立命館大学国際平和ミュージアム 終身名誉館長 安斎 育郎

講師による内容紹介：

平和とは何でしょうか。かつて平和は「戦争の不在」と広く理解されてきました。しかし、現代平和学では平和は「暴力の不在」と再定義しています。

講演者は、立命館大学国際平和ミュージアム終身名誉館長であるとともに、福島原発事故 10 年目に被災地に創設した平和博物館「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」の館長を務めています。また、1992 年以来、日本及び世の平和博物館運動に深く関与してきました。

本講座では、あらためて「平和とは何か」について講演者自身の考えを整理します。そして、多様化した平和博物館が踏まえるべき共通の原理について考えるとともに、立命館大学国際平和ミュージアムの立ち位置と未来の可能性につて考察します。

(3) 文化と心「ものの見方は、文化のなかでどのように育まれるのか」—多様性から複線性へ

日時：2026年10月24日(土) 10時00分～11時30分

講師：学校法人立命館 理事/副総長

立命館大学 副学長/総合心理学部 教授 サトウ タツヤ

講師による内容紹介：

私たちは、世界をそのまま見ているわけではありません。ヒトという種には錯覚や錯視をひきおこすメカニズムがあります。それに加え、一人ひとりが、文化(言葉や人との関わりかた)のなかで育まれた「ものの見方」を通して世界を理解しています。その見方は私たちの生活を支え、素早い判断や他者との協力を可能にする一方で、思い込みや偏見、対立を生み出すこともあります。私たちは「自分と違うことをする人」から距離をとりがちですが、その背景には、文化に育まれたものの見方の影響があるかもしれません。

では、違いは対立をもたらすしかないのでしょうか。本講座では、文化心理学の視点から、ものの見方がどのように形づくられ、受け継がれていくのかを考えます。そして、「自分と違う人」を捉え直す複線性という考え方を紹介します。多様性を認めることは重要ですが、一歩進んで、「同じ目的」に向かって「別の生き方」をしている人、あるいは、「自分とは別の径路を歩む人」だと捉える複線性こそが重要です。共通の価値や目標を見据えながら異なる径路を歩む人を尊重することこそが、新しい他者理解をもたらし、紛争や争いを無くすのではないのでしょうか。

■立命館土曜講座 <WEB サイト> <https://www.ritsumeit.ac.jp/doyo/>

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。